

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071400240		
法人名	医療法人 恵友会		
事業所名(ユニット名)	グループホーム ガーデンライフ		
所在地	和歌山県海南市船尾265-8		
自己評価作成日	平成25年1月24日	評価結果市町村受理日	平成25年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/30/i_ndex.php?acti_on_kouhyou_detai_1_2010_022_ki_hon=true&ji_gyosyoCd=3071400240-00&PrEfCd=30&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成25年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣には幼稚園や小学校、少し歩けば市場がある。時々、風に乗り潮の香りが漂ってくる。母体が医療法人であり病院や老人保健施設が、併設しており、24時間医療との連携が確保されている。地域で活躍されているボランティアさんの協力を得て地域の公民館主催の文化祭に毎年入居者様の作品を出展させて頂いている。又、地域の学生の体験学習を受け入れたりと地域の交流も継続出来てます。屋上には自慢の菜園があり、その時の四季折り折りの野菜が食卓を飾ります。個々の入居者様が生き生きとその人らしく、それぞれの生活リズムで過ごしています。家族様の協力をえて、一緒に花見や遠足 所内外での食事会など楽しく、年間を通じて楽しんでいる。市や他の事業所とも協力し合い地域の認知症の啓発にも努めている。

事業所は同一法人の病院に隣接し、緊急時にはホットラインで10分以内に医師が駆けつけられる等、複合施設の機能が十分に活かされている。これにより利用者は安心してホームで生活を送ることができ、職員も安心してケアに取り組むことが出来ている。屋上の菜園では、四季折々の花や野菜を育てており、収穫された野菜が食卓に並びと利用者たちの会話が弾み和やかな雰囲気のある食事風景となっている。また自分たちの日々のケアが利用者によく反映出来ているかどうか、職員同士で話す機会を常に持ち、理念に立ち返りながら利用者の支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	掲げている理念の他に『のんびり ゆっくり ○(まあるく)行こう』の独自の理念を作り、住み慣れた地域の中でゆったりと楽しく心穏やかに過ごして頂けるよう支援に努めている。	事業所の理念の他に職員たちで作上げた理念を共有し、「利用者職員がのんびりと一つの輪になって」を常に心がけている。また、自分たちのケアが利用者に上手く反映出来ているかを話し合う機会を持ち、具体的なケアに理念を反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方や婦人会の方々の協力得て、毎年、公民館で行われる文化祭に作品を出展させて頂いている。地域の中学生の体験学習の受け入れや、地元で住んでいた入居者様の知人の人が時々面会に来られる。	公民館で行われる文化祭には押し花や貼り絵等の作品を毎年出展し、開催日には利用者と一緒に見学に出かけている。中学生の体験学習の受け入れや、ガーデンサポーター、押し花や茶道の先生等のボランティアの訪問がある。また同法人のデイケアには幼稚園児の訪問があり、利用者も参加するなど地域との関わりを大切にしている。	地域の住民として自治会に加入することで、今以上に地域の交流や情報を得る等、事業所がさらに地域に受け入れられることで認知症の啓発にも繋がることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の高齢介護課を始め、地域の事業者同士で認知症サポーター養成講座を開催し地域での認知症の理解の啓発に努めている。又、『認知症になっても地域で住める街作り』を目指し地域の方と認知症の方が一緒に楽しめるサロン作りを目指している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催、家族様や地域の方の代表、市の職員等参加して頂いている。入居者様の暮らしぶりや、行事、事故や苦情、評価への取り組みを報告。委員の皆様より意見や要望、提案を頂いている。	運営推進会議には、元家族の方や、家族の代表、市の職員などが参加し、毎回第3火曜日と日程を決め2ヶ月に1回開催している。会議では事業所のサービス内容や評価への取り組み状況等を報告し、話し合いから得られた意見や要望をサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	権利擁護を利用している入居者様が居り、社協とは連絡を取り合っている。高齢介護課とは事業所の実情を相談する他、認知症サポーター養成講座や市場での空き店舗を利用、地域の人と認知症の人が交流できるサロン作りにも努めている。	市の高齢介護課とは地域の交流サロン作りを共に進めたり、認知症サポーターの養成講座の講師依頼を受ける等双方向の協力関係が築かれている。また権利擁護事業の利用を通して社会福祉協議会とも密に連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前は鍵も掛けず出入り自由であったが、入居者様の認知の重度化もあり、安全対策や感染防止の為に家族様には十分理解して頂き施錠している。職員も施錠が身体拘束である事を認識している。	身体拘束については外部研修に参加している。全職員は内部研修を通して正しく理解している。また管理者及び職員はスピーチロックが拘束になることを正しく理解しており、職員間で相互に声を掛け合い拘束しないケアに取り組んでいる。	ホームは2階にあり正面玄関は1階となっている。事故等への配慮から正面玄関のみ施錠をしているが、職員の見守りの工夫をし、一人ひとりの気分や状態を把握しながら施錠することなく利用者が安心して過ごせる環境づくりに取り組む事を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉遣いを始め入居者さまの人権を侵害するケアは行っていない。職員同士でも注意しあえる雰囲気である。又、研修にも参加、内容をフィードバックし職員1人、1人が認識しケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前入居されていた利用者様が、成年後見人制度を利用されていた事がある。現在も権利擁護を利用されている方が居られている。近く、成年後見制度を利用される方も居られ理解、活用できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭と文章で説明させて頂いている。又、確認を行い 家族様が納得して頂いたらサインをお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口、担当者を設けている。家族様来所時などに、意見や要望を出して頂ける雰囲気作りを心掛けていると共に、家族様との話の中で想いや願いなど察するようにしている。	支払いの為家族が事業所を訪問しており、その際職員より利用者の様子を報告したり、提案をすることで家族からの要望や意見を聞く機会になっている。具体例として利用者と職員が同じ食卓を囲んで同じものを楽しく食べるほうが良いのではとの提案があり、現在はそうにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、職員全員参加によるミーティングを行っている。朝・夕の申し送り時にも情報の伝達や意見交換を行い日々のケアに努めている。	ミーティング時に職員からの意見や提案を出す機会を設けている。事業所の環境を良くする為に空気清浄機の購入や食事介助が多い時には勤務時間の変更等の提案があり運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体として経営コンサルティング会社との契約も3年目に入っている。ライフ・ワークバランスも取り入れてあり、職場環境の改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	役職者を対象に法人内での研修を定期的にも実地、全職員対象に内外の研修への参加する機会が確保されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議やキャラバンメイトの啓発活動にも参加、同業者との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはその方の自宅や受けているサービス事業所に足を運び、本人様と話しをしその会話からその方の思いを探ってみる。入居初期には不安にならないよう又、顔を覚えて頂くように関わりを密にしてその方の安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様にも入居前に事業所の見学を兼ねた面接を行い不安や要望を聞くようにしている。入居後も入居者様の状態や暮らしぶりを報告。支援の方向性を一緒に考えケアに活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様の『その時』とは在宅介護が限界になっていて介護負担の軽減の事が多い。本人様を始め家族様と話しをしながら想いを探り、提示している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や所内外でのレクリエーションを職員と一緒にに行い楽しんでいる。顔を見たり、傍に居るだけで安心する関係作りを目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お支払いなど月1回、来所して頂ける機会を設けている。必要に応じて電話で適宜に報告、相談を行っている。行事の時には前もって家族様にも連絡、お願いし参加して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけ馴染みの所へ行ける様 散歩や遠足等で出向いている。家族様の協力で馴染みの関係の継続している方も居られる。続いていけるよう支援に努める。	近隣の方が利用者を訪ねて来所されたり、職員と一緒に利用者の自宅を訪ねたりしている。また入居前から利用していた病院や墓参り、自宅への外出、外泊は家族の協力を得て馴染みの関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関わりを職員は邪魔をしないように見守っている。トラブル発生時には職員が間に入るようにしている。又、本人様が1人の時間を希望される時にはその意向を重視している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の家族様に運営推進会議の委員様として協力をえている。他の施設等に移られた方の様子を親に行ったりと、家族様とも親しい関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前、入居当初 日々の暮らしを支援して行く中で思いを聞くようにしている。困難の場合は家族様の意向を聞き、それが本人様本位のものであるかどうかをきちんと見極めようとしている。	日々の生活から利用者の思いや意向について、担当している職員が把握しミーティングで他の職員と話し合い検討を重ねている。また困難な場合は家族からの聞き取りも行いながら利用者本人の視点に立って支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前アセスメントにより本人・家族・担当ケアマネ等より情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の利用者の状態の変化を正しく把握し、今持っている力を家事手伝い等で発揮して頂くようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題や気づきが生じた時には関連スタッフと話し合い、家族様に説明し、意見や意向を聞き本人本位の支援を重視した介護計画作成に努めている。	家族等の意向を面会時等に聞き取り、職員間での話し合いを重ねて、それぞれの意見やアイデアを介護計画に反映させている。また必要に応じて主治医等関係者の意見を聞き、現状に即した介護計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個々の利用者様毎に生活記録し、介護計画の評価は月1回行いカンファレンスを行い介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している老人保健施設やデイケアの行事に参加したり、受診に付き添いをしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で活躍されている押し花の先生やお茶の先生方にボランティアに来て頂いている。終了後には、雑談を兼ねて一緒にお茶を飲んだり、時にはカラオケなどで交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院が併設しているので、24時間医療との連携が確保されている。入居者様の殆どの方の主治医が併設している病院の医師であり、週4日訪問診察をうけている。又、家族様の要望があれば他病院(整形外科・婦人科)への付き添いにも同行している。	利用者の殆どの主治医は隣接している病院の医師であり、24時間医療との連携が確保されている。また週4回は医師が事業所を訪問し、診察が行われている。他の医療機関への受診は家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設している病院、老人保健施設の看護師との協力体制が築けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室があり、病院との連携も確保できている。又、情報交換や共有も出来るため、入・退院時の支援もスムーズに行え家族様に理解して頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に『看取りの指針』にて説明させて貰っている。入居者様の重度化については段階ごとに家族様と話し合っている。状態により医師に相談・話し合いに入ってもらっている。	入居時に「看取りの指針」にて説明を行い、利用者の重度化に応じてその都度家族と話し合いの機会を持っている。また状態に応じて主治医から説明を行ってもらっている。今までに2名の看取りを行った経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的や突発的に訓練を行い、慌てずに、緊急時に対応出来るよう努めている。又、訓練後にはミーティングを行い話し合い次に活かせるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年、法人全体の防災マニュアルが完成。防災訓練や研修などにも参加。事業所独自の防災訓練も行っている。元消防団員の方にも協力、参加していただいている。	法人全体の避難訓練を消防署立会いのもと年2回行っており、利用者も参加している。事業所にはスプリンクラー、消火栓、消防署に繋がるホットラインが設置されている。備蓄に関しては法人全体として食料品や毛布、医療品が準備されている他、事業所独自に非常袋(鍵 住所録 懐中電灯救急箱など)と水が備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人、1人ひとりに合わせたトーンやゆっくりと分かりやすい言葉掛けをしている。地方出身の方にはその地方の方言を使用する事もある。親しみや慣れで人格を否定しないよう職員間でも注意しあえるように又、注意しあっている。	利用者が分かり易い簡潔な言葉で話をして いる。呼称は名字で呼んでいるが分からない 人にはその人が分かるような呼び方をする 等、馴れ合いにならないように職員間で気を つけ、お互いに注意しあっている。またトイレ 誘導時は「トイレ」と言う言葉を他の利用者 に聞こえないよう声掛けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の意志で決めてもらうように支援している。表出困難の方には、その方の立場に立ち職員同士で話合ったり、家族様の協力を得ながら決めさせて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日、1日を楽しく穏やかに過ごして頂く為に事故や入居者様同士のトラブルに気を配りながら、その人のペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で選んだ服を着て頂いている。服装が合わない時には、さりげなく声掛け一緒に選んだりしている。介助の方にはどちらが良いか選んでもらい着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	数名の方が職員と一緒に食事の用意を行っています。何が食べたいか、何が好きか聞きリクエストにより食卓へ上がります。入居者様の状態に応じて細かく・粗く刻んだり、トロミをつけたり、時にはHPの栄養士さんに相談、提供している。	調理、トレイ拭きなどそれぞれが出来ることを 行い食事の準備や片付けを行っている。その 日の献立はその日に利用者と相談しながら 決めており屋上の菜園で取れた野菜が食卓 に並ぶと会話が弾みそれが苦手な利用者 も食事がすすんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表に付けて管理しています。食事やおヤツの時以外にも飲みたい時に飲んで頂いたり、水分補給を促しています。食欲が無い時には本人様に聞き、食べたい物を食べて頂いたり、他の物を提供して食べて頂くようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自己にて出来る方には声掛けや時に見守りを行っている。介助の方には毎食後に行っている。又、週2回 洗浄剤にて義歯を消毒している。噛み合わせや義歯が合っていない時には訪問歯科医に連絡、治療をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表に付けて個々の排泄パターンを把握、そわそわしたり落ち着きがない人の行動には目を配り観察、適宜に声掛けしトイレ誘導を行っている。夜間、紙パンツやPTイレを使用している方も日中はトイレ誘導・介助し使用している。	数名の利用者は排泄が自立しており、他の利用者には、日中はリハビリパンツでトイレ誘導をさりげなく行っている。チェック表だけに頼らず、本人の様子を見ながら声掛けを行い、トイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	はちみつ湯や水分をたくさん摂取してもらうように提供したり、食物繊維の多い野菜類を摂取できるように献立に取り入れる工夫を行っている。この排便状態を記録し、医師に相談、投薬コントロールする事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	好きな時間に入って頂きたいのですが、過年度の介助の方は曜日を決めて入ってもらっています。軽度の方には声掛けをし、本人様の良い時に入ってもらっています。入らない場合は本人様の意思に沿って支援している。	毎日入浴されている利用者や曜日や時間を決めて週2～3回の入浴を行っている利用者など本人の希望に合わせて入浴できるように工夫している。入浴を拒否する利用者には時間を置いたり、職員が変わって声掛けをするなど一人ひとりに合った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ある程度の目安はあるが、起きたい時に起きてもらい、寝たいときに寝てもらっている。日中でも本人様の希望であれば、居室にて休んで頂いている。又、本人様の体調を見て休む事を勧める事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理している。内容や副作用の説明書はすぐに見られる場所に置いている。訪問診察時には入居者様の体調や様子を報告。医師に相談し投薬をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	認知症の進行により段々と難しくなっています。職員がサポートしながら、得意な家事や、大好きなカラオケなど楽しんで頂けるよう支援に努めている。また、個別での楽しみを見つけてもらい心豊かになるよう支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様の協力で一部の方は外出・外泊が出来るよう認知や身体機能の低下により、毎日や全員とまではいけないが、買い物や散歩にしている。外食やドライブ・遠足など、これから暖かくなってくるので出かける機会を多く作れるように努めている。	お天気の良い日は屋上に菜園を見に行ったり、洗濯物を干しに行ったりと日光浴の機会が多い。また近所のお地藏さんにお参りにも出かけたりしている。年に数回外食やお花見に家族と一緒に出かけると、気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っているというだけで安心される方が多く家族様には『紛失』する事を理解、承諾して頂き本人様の安心出来る金額を持って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年に2回、年賀状や暑中お見舞いなど、家族様やボランティアの方々宛に送っている。居室には電話があり1人の方が家族や姉妹などにかけて、楽しく話をされている。他の方は希望があれば事務所の電話を使って頂いている。ダイヤルはスタッフが回している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓からは暖かい日差しが入り、眩しい時にはカーテンで調整している。冷暖房では室内と外気の温度差に配慮し快適に過ごして頂けるように努めている。居住スペースが2階にある事もあり騒音など直接的には入ってこない。	リビングの窓からは幼稚園の園庭が見え子供たちの楽しそうな様子が利用者の笑顔を誘っている。利用者が好きなところでくつろげるようにソファがいくつか配置されている。ロビーや玄関には利用者の作品や写真が飾られ、金魚も飼育する等、和やかな雰囲気が醸し出されている。また食器棚は倒れてこないように耐震対策がとられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にはどこでも休めるように椅子やソファを配置している。時々 気の合う物同士が座り楽しいひと時を過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には自宅で使っていた家具類やカーテンなど依頼するが事業所の物を使用したり、新品を購入されることが多い。配置などは本人様の動きやすいようにベッドの高さは足がつく立ち上がりやすいように調整している。	利用者の身体状況に応じて部屋にマットを敷き怪我のないよう対応したり、ベッド柵が必要な人には取り付けを行うなど工夫している。また使い慣れたタンスや日本人形、花などを持ち込み、居心地良く過ごせるよう工夫している。飛散を防ぐ為、窓ガラスにはシートを貼り、タンスには止め具を用いるなど安全への十分な配慮が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札をトイレには張り紙をして分かってもらえるようにしている。		